

行政視察報告書

社民党土浦

平岡房子

- 1 テーマ 海軍鎮守府とともに発展した佐世保のまちなか再生（佐世保市立地適正化計画）について
- 2 視察日時 令和5年7月31日（月）15:00～16:30
- 3 視察地 長崎県佐世保市
- 4 目的 ・人口減少に伴い、空き家の増加、人口密度の減少など直面する課題に対し、立地適正化計画によって持続可能な都市を目指す。
- 5 内容 ・佐世保市の歴史、成り立ちについての説明
・都市計画により今ある拠点を再生し、成熟した持続可能な都市づくりの説明
- 6 取り組みの概要

(1) 佐世保市の概要

佐世保市は、長崎県北部に位置し面積426.06㎢（土浦市の約3.5倍）人口233,931人（土浦市の1.6倍）で、県内では長崎市次ぐ大きな都市である。海と山に囲まれ、全体の1割の面積に8割の市民が暮らすコンパクトシティである。

明治22年に開庁した海軍鎮守府設置を契機に発展し、計画的に都市基盤が整備された。戦後は平和産業港湾都市を目指す中で造船業が基幹産業となっている。また西海国立公園の入り口としての観光や商業の中心でもある。

(2) 都市の骨格構造に即したまちづくり

佐世保駅周辺における再開発事業では「5本の歩行者軸」を設定し快適な歩行者空間の形成に努めている。広場やターミナル施設の配置や施設デザインを進め、埋め立て地を民間の力を生かして利活用を進めている。まちづくりの理念にかなった施設誘導をするため建物の高さ制限を設けるなど景観を考慮したほか圧迫感のない開放的な空間形成をはかっている。

また、佐世保中央公園をリニューアルした。

近年、空き地空き家が増え、また郊外への宅地造成が進む中、中心市街地に近い丘を宅地造成するなど、出来るだけ中心部に人が集まるまちづくりを進めてきた。

7 質疑応答

「海に面し、山が迫っている佐世保市の地形は、中心部に人々を集中させるには絶好の地形である。この地形を生かし、地域の財産である港や鉄道、高速道路などを生かしたコンパクトシティづくりを進めて行けたら素晴らしい。」という感想を述べた。

8 土浦市の政策に生かすには

佐世保市は広い面積の1割に8割の人口が集中しているコンパクトシティである。中心市街地の地下が安いという利点がある。海と山が迫る地形上から期せずしてコンパクトシティづくりが出来ている。

空き家対策も兼ねて、地形に応じてマンションを建てるなど民間の力を生かしたまちづくりが出来ている。

中心市街地の真ん中を高速道路が走り、インターチェンジから市役所までが近い。大村線、佐世保線、松浦鉄道のターミナル駅として、交通の便が良い。このため複合商業施設なども建設されて、まちなかの賑わいを見せている。

では土浦市はどうか。平坦な土地が多く中心市街地の地価が高いため郊外へ郊外へと開発が進み、市の中心部が空洞化しているという現実がある。また、旧城下町と言うことで中心市街地は折れ曲がった狭い道路が多いなど都市計画を進める上では困難な面が多い。

佐世保市とは土地利用の条件が全く違うのですべてが参考になるわけではないが、中心市街地活性化を目指すという点では大変参考になった。

土浦市は、このまま中心市街地の空洞化を手をこまねいて見ているわけにはいかない。せめて30年後を見据えた計画的なまちづくりが必要であろう。都市計画の見直しが必要である。

- 1 テーマ 大野城市歴史文化基本構想について
- 2 視察日時 令和5年8月1日(火) 13:30~15:00
- 3 視察地 福岡県大野城市 大野城心のふるさと館
- 4 目的
 - ・地域に存在する文化財を、指定・未指定にかかわらず幅広く捉えて的確に把握し、文化財をその周辺環境まで含めて保存活用するための構想について理解し、土浦市の文化財保護の取り組みに生かす。
- 5 内容
 - ・大野城市の歴史、成り立ちについての説明
 - ・文化財基本構想についての説明
 - ・心のふるさと館の見学と体験活動

6 取り組みの概要

(1) 大野城市の概要

大野城市は、福岡市の南東部に位置し面積26.89㎢(土浦市の約5分の1) 人口10,2815人(土浦市の5分の3)の都市である。古くは大陸との交流があり、日本で最も早く農耕文化が開けた地域とされている。北九州地方の交通の要所でもある。

市の名前の由来でもある大野城は、663年に起きた白村江の戦いで敗れた後665年に築かれ、約8kmに及ぶ城壁を擁した山城であり、その1年前に築かれた水城(みずき)は中国・朝鮮半島からの侵攻を防ぐために構築された城壁である。この二つのほかに牛頸須恵器(うしくびすえき)の窯跡など国指定の特別史跡がある。このほかにも県指定、市指定のたくさんの有形文化財を抱えている。

古代から現代までのたくさんの文化財を「地域の宝」として生かしたまちづくりを大野城市は進めている。

(2) 心のふるさと館

この取り組みの中核となるのが、「心のふるさと館」である。この博物館建設に当たっては、市民の強い反対もあったそうだが、開館して以来、単に展示品を見せるだけでなく、体験活動の場としても活用されている。また、文化財保存のための啓発活動の場としてイベント等を開催し、市民が文化財保存に主体的に関わりを持つようにしている。

職員は文化財担当13人(非正規7) ミュージアム担当17人(非正規10)と、多くの職員を配置しており、たくさんの予算をかけて運営している。視察当日も某テレビ局朝ドラマのオープニングを飾った田中達也氏の作品展示を2,000万円の費用をかけて行っていた。

また、大野城の城壁のレプリカの隣には、その高さを実感すべくクライミングウォールが設置され、指導員の元子供たちが楽しんでいた。

まさに、見て、触れて、考える学びの場であると感心した。

7 質疑応答

質問：文化財には、有形、無形とあるが、無形文化財の保護、特に祭りなど後継者不足に悩む地域は多いと思うが、どのように取り組んでいるか。

回答：出来るだけビデオ等に収録し、画像で保存していくことが大事だと思う。

8 土浦市の政策に生かすには

こうした博物館等公共の施設は、建設には費用をかけるが、その後の運営がうまくいかないことが多いように思える。箱モノだけでは市民の税金の無駄遣いと非難されることも往々にしてある。大野城市は、当初の市民の非難を跳ね返すだけのしっかりした取り組みとなっている。充実した職員の配置、イベントへの十分な費用対策など市民が楽しんで利用し、満足して誇れるものにしていかなければならない。

土浦市も、他に誇れる歴史と伝統の街である。この歴史的価値を市民がしっかりと理解し、他に広げるためにも、予算を有効に使っていくべきと感じた。

- 1 テーマ ゼロカーボンシティへの取り組みについて
- 2 視察日時 令和5年8月2日(水) 9:30~11:00
- 3 視察地 長崎県西海市
- 4 目的
 - ・ゼロカーボンシティ「脱炭素社会に向かうまち西海市」をスローガンに掲げ、「2050ゼロカーボンシティ」を表明した西海市の「脱炭素」に向けてエネルギーの重点政策について理解し、土浦市の取り組みに生かす。
- 5 内容
 - ・江島沖洋上風力発電の促進
 - ・松島火力発電所の新技術導入

6 取り組みの概要

(1) 西海市の概要

西海市は長崎県西部の西彼杵(そのぎ)半島北部に位置し、県内2大都市長崎市と佐世保市の中間に位置する。面積は242㎢(土浦市の約2倍)人口は25,629人(土浦市の約5分の1)である。

周囲を海に囲まれた西海市は多様な水産物と、種類豊富な柑橘類を産する農業、県内一の飼育数を誇る養豚業がある。

また有力企業として造船所、製塩所、火力発電所のJ-POWERがある。

(2) ゼロカーボンシティにむけた取り組み

① 江島沖洋上風力発電の促進

区域面積39.838㎢、風車の数約25基程度、最大出力約2万kWでこれは長崎市の4割の電力を賄うそうだ。風車の数は事業者により異なるそうだが、事業者の入市に伴い産業の活性化にも繋がってくる。

② 松島火力発電所の新技術導入

CO2排出削減のために老朽化した火力発電所を廃止する方向が国から打ち出されたとき、西海市においても稼働停止・廃止を考えたそうである。しかし、ガス化炉とガスタービンという新技術を追加設置したことで、CO2フリー水素発電をスタートさせ、電力の安定供給を維持し環境負荷の低減を目指すことが出来た。

③ 太陽光発電と蓄電池

太陽光発電の電気を蓄電し、公用車のEV化によりCO2削減する。また市民へのEV車利用の促進を図る。西海市は高齢化率40%で、既存のガソリンスタンドも老朽化で閉鎖するところが増えている。乗用車のEV化は有効な対策となった。

④ 未来に生きる子どもたちに

2050ゼロカーボンを目指す西海市にとって一番重要となるのは、その時代を生きる子どもたちの環境に対する意識の醸成をはかることである。そこで、出前講座等を活用して小中学生にむけて脱炭素社会を目指す環境教育に力を入れている。

7 質疑応答

子どもたちへの啓発活動の取り組みについて質問したが、閉会時間が迫っていることから出来なかった。

8 土浦市の政策に生かすには

土浦市は西海市に先駆けてゼロカーボンシティ宣言を行っている。しかし、実際の取り組みはどうであろうか。担当部署の職員の育成、子どもたちの意識を高める取り組み、地域ぐるみ街ぐるみでのゼロカーボンにむけての取り組みを、本腰を上げて進めなければならないのではないかと思った。